



池から見る農学部
写真 能美 誠(B昭55年)



会長あいさつ

農学部同窓会会長

西尾 迺 富

昨年の冷夏とは違って変わり、今年は暑い日が続きましたが、同窓会会員の皆様方におかれましては、職場で、あるいは地域で、元気にご活躍されておられることとお慶び申し上げます。

さて、今年5月の総会で、皆様方からご推挙いただき、故常田修元会長、林眞二前会長の後を受けまして、鳥取大学農学部同窓会会長の役を仰せつかることになりました。大役であり思ってもみなかったことではありますが、心を引き締めて同窓会の発展に努力していく所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。

ところで、同窓会には大きく2つの役割があります。

一つは会員相互心を通わせ、情報交換を行い、親睦を図る役割であり、今一つは、会員相互が結集し在校生の範となり、母校の発展と地域社会に貢献することです。

私も同窓会の諸行事にはできるだけ参加し、この役割を果たしていきたいと思っております。

今年から、鳥取大学は独立行政法人となり、大学

全体の組織運営体制が変化するなかで、農学部でも新しい体制で教育研究活動が行なわれるようになりました。また、今年は、鳥取県農業試験場が創立100周年を迎えるほか、二十世紀梨も鳥取県に導入されてから100年が経過します。この間、農村は大きく変貌して参りましたが、母校である鳥取大学農学部は地域の産業・社会の発展、さらには乾燥地域を中心とした諸外国の農業、農村の発展に大きく貢献してきたと確信しております。

新しい時代を迎え、農学部同窓会としても、これまで以上に充実した活動を行っていくことが求められております。幸い、終身会費制は軌道に乗り、大多数の農学部新入生の方々から、入学時に会費を納入いただいておりますが、こうした会費をいかに有効に活用して、同窓会の発展をはかっていくかを考えていかなければなりません。同窓会のなかでも、今後の活動のあり方に関する議論を深めていく予定です。

なお、最後になりましたが、会員の皆様方の今後一層のご活躍とご健勝を祈念しまして、挨拶と代えさせていただきます。

主な目次

会長あいさつ	1	講座トピックス	5
農学部長あいさつ	2	支部だより	10
総会報告	2		



国立大学法人鳥取大学がスタートして

農学部長 本名 俊正

今年の夏は例年になく暑く、また台風が頻繁に日本をおそい、地球全体が気候変動に入ったように思われますが、同窓会の諸先輩におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。常日頃より鳥取大学農学部の発展のために、多大なご支援をいただきましてありがとうございます。心より厚く感謝申し上げます。

4月から国立大学法人鳥取大学として新しい体制での大学運営がはじまりました。国立大学の法人化は、我が国の大学の歴史上かつてない大きな改革であり、「教育」「研究」とともに新たに「社会貢献」が大学の果たすべき役割となっております。自主、自律、自己責任がこれからの新しい大学の目指す目標となります。これから数年間で、大学は確実に大きく変わる予感がします。

私たち教職員の身分も国家公務員ではなくなり、一労働者として位置づけられ、労働条件としては民間と同じように労働基準監督局の下におかれるなど、様々な点で大きく変わりました。

大学の運営は、学長・理事5人による役員会が強い権限を持ち、副学長2人とともに運営方針等を決定して進んでいます。農学部からは岩崎先生が理事に、小林先生が副学長に就任されておられます。また大学の運営については外部の有識者を半数以上含む経営協議会が組織され、これまでの評議会は教育研究評議会として教育と研究について審議することとなりました。予算は、運営交付金と名前を変えて文部科学省から交付されますが、毎年減額される予定ですので、これからは外部資金の獲得が重要な課題となります。外部評価の結果が運営交付金にも反映されますので、教育・研究・社会貢献に実績を

あげ、魅力ある大学を作っていく努力がより一層重要になってきました。

農学部では、獣医学部の他大学への移転統合について長い間審議されてきましたが、教員数を10名増員して改組し、鳥取大学農学部獣医学科として充実発展することになりました。これに伴ない、生物資源環境学科についても魅力ある改組を行なう予定です。2007年には我が国の大学受験生数と募集人数が等しい、いわゆる「大学全入時代」がやってきます。国公立立を問わず、大学にとっては非常に厳しい競争の時代を迎えています。両学科の改組とともに新しく附属のセンター設立も検討しておりますが、農学部全体がこれまでの「生産」中心の学問体系から、生産者から消費者までを視野に入れた、「食料」「安全」「健康」「環境」「生命」等について取り組む「新しい農学」への転換を図り、受験生にとっても魅力ある「新しい農学」へ発展することを目標としています。

特色ある教育、研究、地域貢献を積極的に進め、魅力的な大学を目指し、全国から受験生が集まり、満足して卒業し、社会で活躍できる、愛校心を持った学生を育てることが重要な課題です。教職員、学生、同窓会、後援会が一体となって、新しい大学、新しい農学部を創造していきたいものです。

また、湖山に移転しまして40有余年が経過し建物も老朽化してきましたので、明年度から校舎の大幅な改修工事を予定しております。

新しい大学にとりまして、同窓会の役割は今まで以上に重要になります。同窓生諸先輩のこれまでの暖かいご支援に心から感謝いたしますとともに、今後ともさらなるご支援ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総 会 報 告

平成16年5月8日（土）午前11時から、農学部同窓会の定期総会が、前回と同じく鳥取市末広町の「白兔会館」において開催されました。出席者は51名で、昭和13年から昭和61年卒業生まで、約50歳の

年齢差のある同窓生諸氏が一同に会しました。20代、30代の若い同窓生会員の参加がみられなかったことは残念でしたが、遠くは関東から九州まで、幅広い地域から会員が参集しました。

作野友康学内副会長（F昭和37年卒）が司会進行役を務め、開会宣言のあと、来賓の本名俊正農学部

長が、農学部の近況について説明され、今年4月の鳥取大学の独立行政法人化に伴ない、農学部の組織運営体制・方針が変わりつつあること等を話されました。

つづいて議長選出に入り、田中敏夫氏（C昭和23年卒）が満場一致で推挙され、田中議長のもとで報告事項および協議事項の審議に入りました。まず、平成14・15年度事業報告が行われました。そのなかでは、（1）この2年間に支部総会が全国で25回、クラス会が13回開催されたこと、（2）卒業式祝賀会の援助を行ったこと、（3）慶弔事に対して祝電（3件）、弔電（16件）を送ったこと、（4）終身会費納入状況に関して、約90%の新生から会費が納入されたこと、等の報告がありました。つぎに、会計報告があり、（1）新生からの終身会費の納入が好調であったため、収入は当初の予定額を約1200万円上回ったこと、（2）予算の支出は大体計画通りに実施されたこと、（3）1200万円を終身会費積立金に回すこと、等が説明されました。そして、質疑応答および丹松久夫氏（V昭和26年卒）による監査報告の後、議決がなされ事業報告案、会計報告案ともに全会一致で承認されました。

つぎに、平成16・17年度の事業計画案と予算案の説明と審議に入りました。事業計画のなかでは、今回、新しく 学科・コースへの助成、同窓会のあり方検討委員会の設置が提案されました。このうち、は、入学時に新生より同窓会会費を納入してもらうことから、農学部在籍時より同窓会の良さを理解してもらうため、在学生にとって役立つ活動に学

科・コース単位で財政的補助を行おうとするもので、は若い同窓会会員の同窓会離れが進むなかで、今後の活動のあり方を検討しようというものです。また、予算に関しても、学科・コースへの助成に対して80万円を計上することを目玉とした予算案が提案されました。審議の結果、この事業計画案と予算案も全会一致で承認されました。

さらに、役員改選へと議事は進み、役員選考委員会により次の候補が提案されました。

会 長：西尾遼富（C昭和22年卒）
副会長：秋藤宏之（A昭和31年卒） 山口 享（C昭和31年卒）
林 隆敏（V昭和35年卒） 朝倉 晋（F昭和29年卒）
木村 肇（E昭和31年卒） 前田千博（B昭和35年卒）
監 事：小原隆三（A昭和28年卒） 川下全功（F昭和39年卒）
山本定博（C昭和57年卒）

また、事務局役員についても、事務局の方からつぎの候補が提案されました。

学内副会長：田邊賢二（A昭和43年卒）
常任幹事：中田 昇（A昭和49年卒） 竹内 崇（V昭和61年卒）
北村義信（E昭和46年卒） 能美 誠（B昭和55年卒）

審議の結果、全会一致で新役員は承認され、それを受けて西尾新会長が会長就任の挨拶をされました。

最後に、林眞二前会長を名誉会長として推挙したいという提案がなされ、これも満場一致で承認され、総会は成功裡に終了しました。

総会終了後は、白兔会館内の別の会場へ移動して懇親会に入り、近況報告や学生時代の懐かしい話で、会場は大いに盛り上りました。

（平成14・15年度庶務担当幹事・能美 誠 B昭和55年卒）

平成14・15年度事業報告

1. 総会（平成14年5月11日）
2. 会報発行（第24号、第25号）
3. 支部活動等

支部総会

兵庫但馬支部（H14.5） 北海道支部（H14.6）
熊本県支部（H14.6） 沖縄県支部（H14.6）
因幡支部（H14.7） 岡山県支部（H14.8）
香川県支部（H14.8） 山口県支部（H14.8）
関東支部（H14.10） 大阪支部（H14.10）

島根風紋会（H14.10） 島根県支部（H14.12）
静岡県支部（H15.1） 鳥取中部支部（H15.3）
熊本県支部（H15.6） 沖縄県支部（H15.6）
徳島県支部（H15.8） 因幡支部（H15.10）
島根風紋会（H15.10） 福岡県支部（H15.12）
静岡県支部（H16.1） 関東支部（H16.1）
鳥取中部支部（H16.1） 京都支部（H16.2）
愛知県支部（H16.2）

クラス会（鳥取開催）

A昭和25年卒、F昭和34年卒、V昭和39年卒、
A昭和28年卒、A昭和18年卒、F昭和23年卒、

A昭和22年卒、C昭和22年卒、A昭和23年卒、
B昭和34年卒、V昭和35年卒、A昭和25年卒、
A昭和18年卒

4. 卒業祝賀会(平成15年3月25日、平成16年3月25日)

5. 慶弔事

祝事

岸本 潤氏(F昭19年・旧教官)

河本義永氏(E昭和30年)

西尾迺富氏(C昭和22年)

弔事

広安省三氏(A昭10年) 横川準二氏(F昭20年)

宮田和夫氏(旧教官) 塩田 晋氏(V平2年)

池田 茂氏(旧教官) 鈴木貞夫氏(V昭18年)

渡辺正平氏(旧教官) 魚住侑司氏(旧教官)

長谷川長年氏(V昭32年) 上嶋俊彦氏(旧教官)

広谷博之氏(A昭28年) 遠山正瑛氏(旧教官)

米谷起夫氏(B昭35年) 森田二郎氏(V昭28年・旧教官)

石井和彦氏(旧教官) 平野茂博氏(旧教官)

6. 卒業式・入学式(平成14・15年度)への会長出席

7. その他

平成14・15年度会計報告

<一般会計>

平成16年3月31日

収入の部

(円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 残 額	備 考
前 期 繰 越 金	1,238,544	1,238,544	0	
入 会 金	2,000,000	2,365,000	365,000	平成14年、15年入学
会 費	14,560,000	27,031,900	12,471,900	終身会費 140件 H14入学 232件
預 金 利 息	1,456	96	1,360	年会費 469件 H15入学 241件
合 計	17,800,000	30,635,145	12,835,540	

支出の部

(円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 残 額	備 考
事 務 費	600,000	497,639	102,361	事務用品等
通 信 運 搬 費	600,000	581,829	18,171	コピー料、コピーリース料、電話料等
会 議 費	700,000	732,751	32,751	幹事会、役員会
旅 費	2,500,000	2,927,437	427,437	支部総会出席旅費
支 部 援 助 金	1,200,000	1,140,000	60,000	25支部、13クラス会
賃 金	6,000,000	5,556,000	444,000	賃金、事務謝金
会 報 発 行 費	3,500,000	3,514,471	14,471	会報第24号・25号
慶 弔 費	200,000	36,802	163,198	祝電、弔電
卒 業 祝 賀 会	1,000,000	1,200,000	200,000	平成15年・16年
総 会 費	600,000	571,140	28,860	平成14年5月11日
備 品 費	100,000	75,600	24,400	プリンター
広 報 記 録 費	600,000	282,006	317,994	就職ガイダンス、広告料
退 職 積 立 金	100,000	100,000	0	平成14・15年度
予 備 費	100,000	0	200,000	
合 計	17,800,000	17,215,675	584,325	

収入額 30,635,540円 - 支出額 17,215,675円 = 13,419,865円

12,000,000円 終身会費積立へ

1,419,865円 繰越金

平成16・17年度事業計画

平成16年4月1日

1. 総会 平成16年5月8日(土)

2. 支部活動の強化

3. 会報発行(第26・27号)

4. 学科コースへの助成

5. 終身会費の推進、会費納入率の向上

6. 広報記録活動(就職ガイダンス・ホームページ作成)

7. 卒業祝賀会の援助

8. 同窓会のあり方検討委員会の設置

9. その他

平成16・17年度予算

平成16年4月1日

< 一般会計 >

収入の部			支出の部		
科目	決算額	備考	科目	決算額	備考
前年度繰越金	1,419,865	H16・17年度 〔 終身会費 年度会費〕	事務費	600,000	事務用品、コピー代等
入会金	2,000,000		通信運搬費	600,000	電話料、郵送料等
会費	15,580,000		会議費	700,000	役員会、幹事会
預金利息	135		旅費	2,500,000	支部出席旅費
			支部援助金	1,200,000	支部総会、クラス会
			賃金	6,000,000	職員賃金、事務謝金
			会報発行費	3,500,000	第26号・第27号
			慶弔費	100,000	祝、弔電等
			卒業祝賀会	1,400,000	平成16・17年度
			総会費	600,000	平成16年5月8日
			広報記録費	700,000	就職ガイダンス・ホームページ
			学科コース援助金	800,000	
			備品費	100,000	
			退職積立金	100,000	平成16・17年度
			予備費	100,000	
合計	19,000,000		合計	19,000,000	

< 事業会計 >

収入の部		支出の部		
科目	予算額	科目	予算額	備考
前年度繰越金	408,973	事務費	100,000	卒業生動向調査
預金利息	27	次年度繰越金	309,000	
合計	409,000	合計	409,000	

< 基本財産 >

科目	決算額	備考
前年度繰越金	12,295,787	定期預金
預金利息	7,213	
合計	12,303,000	

終身会費積立金 24,000,000円 { 平成12・13年度 12,000,000
平成14・15年度 12,000,000

講座トピックス

生物生産学

生物生産学講座の近況をお伝えします。本講座は平成16年度も2年生40名、修士課程1年生13名を迎えました。

作物学研究室は中野淳一助教授、山口武視助教授(A昭58年卒)、田中朋之助手の3人体制で、水稻の紙マルチや布マルチ直播栽培の研究、芝地造成の簡易化技術の研究が行われ、全国から注目されています。田中助手はワシントン州立大学へ10か月間の留学を終えて元気に帰国されました。

植物遺伝育種学研究室は、辻本壽教授、富田因則助教授、田中裕之助手(A院平8年修了)の3教員が伝統のムギ育種、短稈イネの育種に遺伝子工学や

イオンビーム照射など、最先端技術を駆使した研究を行っておられます。辻本先生は4月から修士課程の専攻長として活躍しておられます。

園芸学研究室は田辺賢二教授(A昭43年卒)、板井章浩助教授の2教員でニホンナシ果実の成熟関連遺伝子の解析や新品種育成、根の耐乾性や耐アルカリ性など、伝統を守り、そしてナシ研究のメッカをめざしてニホンナシの研究・教育に力を入れています。板井助教授は15年度の鳥取大学学術功労表彰を受けました。

植物病理学研究室は尾谷浩教授(A昭45年卒)、児玉基一朗助教授の2教員で農学部きってのアカデミックムードあふれる研究と教育が行われています。この春から尾谷教授は学科長に就任され、植物病理学会の英文誌編集責任者の重職と併せ、超多忙の毎日をご過ごしておられます。児玉先生は3月に学位を

取得され、4月1日付けで助教授に昇任され、国際的な活躍をしておられます。

生物生産学講座に所属した学生で、生産技術を中心に学びたい学生は附属農場に所属し、中田昇教授（A昭49年卒）現農場長と、田村文男教授（A昭57年卒）の両先生の指導を受けています。また、乾燥地農学を学びたい学生は乾燥地研究センターの稲永教授（センター長）、浜村教授のもとで指導を受けています。（田辺賢二 A昭43年卒）

応用生命科学

今年の夏は近年になく猛暑でしたが皆様お変わりなくお元気でご活躍のことと拝察します。応用生命科学講座の近況をお知らせします。

昆虫機能学研究室はこれまで通り甲斐教授、東助教授の構成で両先生とも活躍を続けています。博士課程修了の谷直紀君は名古屋大学COE研究員となってタンパク質の計時機構の解明に挑戦しています。

機能生化学の研究室は森嶋教授、山野助教授の構成で変わりませんが、この4月より森嶋先生は教務担当の副学部長として学部運営に多忙な毎日です。本年卒業予定の学生の大半が修士課程へ進学することになっています。

微生物工学研究室は北本教授、会見助教授の二人体制で食用・薬用キノコの新品種開発や栽培技術開発の他、微生物による環境浄化、牛糞の堆肥化などの地域貢献の研究もおこなわれています。

植物機能学研究室では、今年3月末に山内靖雄助手が神戸大学農学部へ転出し、田中教授が一人で頑張っておられます。先生は乾燥地研究センターが21世紀COEの一つに選ばれた一昨より、そのメンバーの一人として加わり、耐乾性の強い作物創成の研究に力をいれています。

生物化学研究室では山崎教授、一柳講師の構成でお元気に最先端研究を続けておられます。

（講座主任 甲斐英則）

生産環境化学

同窓生の皆様におかれましては、益々お元気でご活躍のことと思います。農芸化学、資源利用化学と改組をへて、平成11年度に生産環境化学講座となり、

講座として5年を経過しました。昨年度、5研究分野全てに2名の先生が配置され、10名の先生が教育・研究をはじめとして、学内外で活躍しています。とくに、教育・研究の面では、「微生物から砂漠まで」を講座のキャッチフレーズにし、生産環境をミクロの面からマクロの面まで広範囲に化学的・生物学的見地から追跡することになっています。本講座の2年生の志望者は定員（30名）の約1.5倍という高い競争率でした。生産環境化学講座となって2回目の学部学生は、化学（農薬・医薬等）、食品等の会社へ就職（ほぼ全員内定済み）するとともに、12名の学生が大学院の修士課程（第1次試験の結果、男子9名；女子3人）に進学します。また多くの先生は、海外の乾燥地の調査・研究で、メキシコ、中国、カザフスタン等に出張し、活躍しています。現在の教官構成は、土壌学分野、本名俊正教授、山本定博助教授；植物栄養学分野、真鍋久教授、山田智助手；生物環境化学分野、藤山英保教授、岡真理子助手；応用環境微生物分野、中島廣光教授、作野えみ助手；生物有機化学分野、木村靖夫教授、河野強助教授です。なお、本年度から独立行政法人に移行し、種々の機構改革が行われており、学部長である本名先生は、非常に多忙な時間を送っています。

（講座主任 木村靖夫）

森林科学

森林科学講座では3月末をもって藤井禎雄教授（森林利用システム学）が退官され、鳥取大学名誉教授になりました。先生は引き続き鳥取市湖山町にご在住です。

現在の講座の教育・研究分野とその教員構成は次の通りです。造林学：山本福壽教授、森林計画学：黒川泰享教授・井上昭夫助手、林政学：八木俊彦教授、森林利用システム学：市原恒一助教授、林産科学：作野友康教授、川田俊成助教授、環境樹木学：古川郁夫教授・日置佳之助教授、緑化防災学：奥村武信教授・本田尚正講師、景観生態学：長沢良太助教授

各先生方はそれぞれ教育・研究の多方面にわたってご活躍中のご多忙です。法人化にともなって地域への貢献が一層求められるようになり、学外での教

育・研究も積極的に行われ活躍されています。以下に主な先生方のご活躍ぶりをご報告します。

黒川教授は昨年度から就任されている演習林長に加えて、今年度の講座主任を兼任されており法人化にともなう新しい動きの中での講座運営などのために非常にご多忙です。古川教授はやはり前年度より就任されている、大学院連合農学研究科長としてご活躍中です。島根・山口両大学を含めた構成大学の学生と指導教員をまとめられ、博士の学位取得者の輩出のためにご尽力になっています。また、最近では環境問題に対する学生の関心が非常に高く、八木教授や日置助教授は森林に関する環境行政、環境資源の研究、キャンパス内の環境整備などに積極的に携われ、学生達ともに活発に活動されています。

(作野友康・F昭37年卒)

生存環境学

同窓生の皆様には、益々お元氣にご活躍のこととお喜び申し上げます。最近の講座内の近況を御報告いたします。本講座は環境計画学(吉田、原田)、地圏環境保全学(田熊、猪迫)、水利用学(北村、長谷川)、基盤造構学(服部、緒方)、生物生産機械学(岩崎)、生物生産システム工学(唐橋、三竿)の6分野11教官で構成されています。なお、当講座の関連研究室として、乾燥地研究センター(乾地研)の自然環境学(神近、木村)、水資源学(安養寺、安田)、土地保全学(山本、井上)の3分野があります。

乾地研の矢野友久先生は今年3月に定年でご退官されました。矢野先生は昭和43年6月に鳥取大学農学部農業工学科の助教授として赴任されて以来、約35年間の長きにわたり、農学部、乾地研の発展に大いに貢献してこられました。後任には(独)農業工学研究所より安養寺久夫先生が4月に着任されました。

そのほかの先生方に動きはなく、法人化後も元氣にそれぞれ学内外(外国)で忙しく活動されています。とくに、岩崎教授は研究・国際交流担当理事として、また、服部教授も総務担当副学部長として、法人化後の大学運営、学部運営に精力的に活躍されています。服部先生は講座主任も兼務され超多忙で

す。

また、当講座はJABEE(日本技術者教育認定制度)に積極的に取り組んでおり、田熊教授を中心に具体的な検討を進めています。JABEEの認定を受けるにあたっては会員諸兄のご支援が不可欠ですので、よろしくご協力の程お願いいたします。

さて、学生のほうは、新2年生36名が当講座に所属され賑やかになりました。3年生(30名)は、必修科目であるインターンシップ(夏季実習)履修のため、全国各地へ出かけており、4年生(28名)は卒論、就職活動、進学準備に、それぞれ暑くて貴重な夏を経験しています。同窓の皆様には、当分野の学生が、就職や夏季実習等で、お世話になる機会もあると存じますが、温かいご支援を何とぞよろしくお願い申し上げます。

(北村義信・E昭46年卒)

農業経営情報科学

鳥取大学の独立行政法人化で、大学や農学部を取り巻く環境は厳しくなってきましたが、農業経営情報科学講座では、各教官とも元氣で活躍しています。

まず、昨年度、文部科学省の在外研究員としてアメリカ合衆国(カリフォルニア州立大学デービス校)に滞在されていた松村一善先生は、今年4月中旬に元氣で戻ってこられました。また、小林一先生は、鳥取大学副学長や附属図書館長として、激務の毎日を過ごされています。その他の先生も、暑い夏のなか、日々頑張っていて仕事をされています。

つぎに、学生教育の面では、今年度から“プロジェクトE”なる新たな取り組みを開始しました。これは、食料経済学コースの2年生を対象として、講座教官の個別の研究活動や研究室のゼミ等に参加・協力してもらい、早い段階から研究や勉学の面白さを体感してもらおうという試みです。今のところ、単位の認定までは行いませんが、この取り組みが食料経済学コース学生の学修への動機付けにつながれば、と期待しています。

ところで、来年3月をもって、アグリビジネス経済学分野教授の中山精一先生が停年で退官されます。中山先生は、以前は教養部の教授として経済学を担当してこられました。平成6年より農学部の方へ

配属となり、以来11年間にわたって、農学部で教鞭をとってこられました。農学部の専門科目だけでなく、教養科目の経済学の講義を受けた同窓生の皆さんも多いことと思います。中山先生は温厚な性格で、登山、ドライブ、サイクリング等のアウトドアの趣味を多くもっておられます。中山先生が大学を去られるのは大変残念ですが、退官後も元気で活躍されることと確信しています。

なお、最後になりましたが、同窓生の皆さんのご活躍を心から祈念致します。どうぞお元気でお過ごしください。

（能美誠・B昭55年卒）

獣医学科

獣医学科同窓生の皆様には益々お元気にてご活躍のこととお慶び申し上げます。獣医学科の近況についてご報告いたします。

この1年は、獣医学科にとりましてホットな話題が多かったように思います。特に、高病原性鳥インフルエンザ問題につきましては、獣医微生物学の大槻公一教授並びに獣医公衆衛生学の伊藤壽啓教授のご活躍が連日報道されるなど、長年にわたる先生方の研究成果が生かされるとともに、BSE問題と並んで、獣医師の使命、活躍ぶりが広く社会に認知されたことは、とても喜ばしいと思います。

学科内におきましては、長年にわたり、獣医学科の発展にご尽力いただきました畜産学の関根純二郎教授が本年3月31日付けで定年退職されました。実験動物学の太田康彦教授は4月から学科長を努めておられ、多忙な日々を過ごしておられます。また、獣医外科学教室には岡村泰彦助手が着任され、エネルギーに活躍しておられますし、獣医内科学教室の佐藤耕太講師は平成17年3月まで引き続きテキサス州ダラスにあるテキサス大学に留学されており、益々研究の発展が期待されます。

ところで、旧帝大を除く全国の獣医系8大学では、これまで獣医学科の再編統合について種々検討がなされてきましたが、鳥取大学におきましては自助努力による獣医学教育の充実を目指すこととなりました。それに伴い、農学部ならびに全学の理解と協力を得て、平成16年度から6ヵ年計画で新教育研究分

野を新設することが認められました。獣医学科の総定員は、現在の25名から36名に増員される予定です。これに伴い、獣医学科は以下のように改組される予定です。今後も獣医学教育の充実に貢献できるよう、教員一丸となって努力してまいりたいと考えております。

学科目	教育研究分野
基礎獣医学	獣医解剖学、獣医生理学、獣医薬理学、応用動物学（旧家畜学）、獣医生化学
病態・予防獣医学	獣医微生物学、獣医公衆衛生学、実験動物学、獣医病理学、獣医衛生学、獣医感染症学、獣医寄生虫病学
臨床獣医学	獣医内科学、獣医外科学、獣医神経病・腫瘍学、獣医繁殖学、獣医臨床検査学、獣医画像診断学、獣医薬物治療学
附属動物病院	学科兼任

最後になりましたが、獣医学科同窓生各位の益々のご健勝を心よりお祈りいたしております。

（竹内崇・V昭61年卒）

農場

附属農場は、本学キャンパスの本場と大塚農場の2ヶ所で、教育研究の場として活用されています。附属農場には中田昇（A昭49年卒）田村文男（A昭57年卒）の二人が教員として勤め、それぞれ農場長、農場主事として役割を果たしています。技術系職員は定員削減により減少し、現在10名で生産管理、学生に対する技術指導を担当しています。農場では1週間に8クラス計188名の学生が実習を行い、生産に加えて実習に対応できる作付計画を立てるとともに、冬季や悪天候時の実習にも対応できるように施設化を進めています。東圃場にはトマト、ブドウ、ナシ用の3棟の約10aのビニルハウス、約50aの連棟ナシハウス、そして野菜、花卉のハウス、温室が立ち並び活用しています。また、水田がある西圃場にも従来の育苗ハウスに加えて、農業技術サブコースの学生が組み上げた実習用ハウスもあります。ナシハウスでは園芸学研究室で育成された青ナシの真寿、瑞秋、赤ナシの秋栄を中心に栽培しています。大塚農場は約半分をナシ系統保存園として類縁関係、台木の影響等がわかるように再整備しました。

なお、農業技術サブコースとは農業指導者育成の

ための教育コースとして平成10年に設置され、座学に加えて農場を中心に農業技術を修得し、「実地研修」として農業現場での長期研修が必修となっています。このサブコースの本年度4年次学生は北海道、宮崎、鳥取、山梨でそれぞれ野菜、畜産、野菜、果樹について10ヶ月の研修を行っています。

(中田 昇・A昭49年卒)

演習林

演習林は、森林科学に関する教育および研究を行うための大型野外実験・実習施設です。演習林は、従来の農学部の森林科学関係の分野が利用するだけでなく、最近では環境科学などの分野においても、さらには農学部以外の学生や研究者が演習林を利用する機会が多くなってきています。大学演習林に期待される役割は極めて多様なものになってきています。演習林の一層の充実を図り、教育と研究に役立てるとともに後生に優れた森林を残すことが重要な課題となっています。

現在の研究スタッフは、林長が黒川泰亨（森林計画学教授）、主事が佐野淳之（森林生態系管理学助教授）、技官が松原研一（技術部長）と東尾弘美（技術官）、技能補佐員が大塚勝躬と小谷好正、非常勤職員が長垣真司、事務部は谷田真人（演習林係長）、小島好章（業務係長）などとなっています。

大学の法人化に伴って演習林も民有林扱いとなり、森林行政当局の指導を受けながら演習林を管理することになりましたが、今後、演習林を多面的に活用した研究を鋭気にすすめ、新しい森林科学に関する情報の発信基地としての機能を十分に発揮できるよう努めます。森林に関する教育および研究に優れたフィールドが提供できるよう教職員一丸となって邁進したいと考えています。20mに達する森林観測用のジャングルジムが設置されたり、求めに応じて中学生の職場体験や林業体験研修なども受け入れていて、演習林はますます充実の方向にあります。

(演習林長・黒川泰亨)

動物病院

農学部附属動物病院は獣医学科臨床大学科目の教員が診療を担当しています。病院の専任教員であり

ました岡本教授は4月1日より獣医学科兼任教授として神経病・腫瘍学を担当することになりました。病院には学生が所属していませんでしたが、平成17年度より学生が配属し、研究を実施することになりました。獣医外科学分野助手公募の結果、岡村泰彦氏が4月1日付けで着任いたしました。岡村氏は現在30歳で麻布大学を卒業後、山口大学大学院連合獣医学研究科で外科学教室に所属し、腫瘍マーカーを研究テーマとして学位を取られました。病院の診療体制は現在外科分野3名、内科分野3名（佐藤講師は現在アメリカ留学中）で、10月からは新たに繁殖分野の教授が着任する予定になっています。臨床分野の教員は年度計画で増員され平成21年には14名の体制になることが決定しております。新分野としては獣医画像診断学、獣医臨床検査学、獣医薬物治療学が決定しており、逐次全国公募の形で陣容を整えることとなります。現在動物病院の近代化を目指した改修工事計画が検討されており、農学部の改修工事と連動した形で実施される予定です。病院には臨床教授制度を制定しており、現在牛臨床2名（前田診療所長、遠藤診療次長、鳥取県農業共済連合会）、野生動物1名（福本園長、安佐動物公園）、動物行動学1名（春名院長、春名動物病院）と今年新たに馬臨床1名（天谷所長、大和高原動物診療所）を任命し、学外において活躍をいただいております。

(南 三郎・V昭45年卒)

乾燥地研究センター

今年は暑さが厳しく、台風上陸も異常に多い夏でしたが、同窓会会員の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、乾燥地研究センターもご多間に漏れず独法化の大波に揉まれています。もう一方で世代交代の波もあり、大きな変換期を迎えています。すなわち、初代センター長を務められた水資源分野の矢野友久教授、海外に多くの足跡を残された植物生産分野の遠山征雄助教授には、砂丘利用研究施設時代から永年にわたり教育研究にご尽力いただきましたが、本年3月31日付けで定年退官されました。

現在のスタッフは、乾地環境部門の神近牧男教授、木村玲二講師（自然環境分野）、安養寺久雄教授、

安田 裕助教授（水資源分野）、稲永 忍教授、安
 萍助教授（生理生態分野）、濱村邦夫教授（植物
 生産分野）、玉井重信教授、山中典和助教授（緑化・
 草地分野）、山本太平教授、井上光弘助教授（土地
 保全分野）です。そのほか、国内客員教官3名、国
 外の客員研究者3名、さらに、21世紀COEプログ
 ラム（平成14年度採択）などにより博士号取得直後
 の若手研究員（非常勤講師）11名が採用され、セン
 ターに若人の活気が満ちようとしています。

16年6月末現在、農学部学生11名、修士課程院生
 29名、連合大学院院生15名の諸君（内留学生10名）
 が日夜、砂丘・乾燥地の研究に励んでいます。国際
 性豊かな人材を育むねらいのもとに学生諸君には英語
 会話の研修も組まれており、最近センターでは至る
 ところで英語が飛び交っています。

以上、この1年の様子をお知らせしました。最後
 になりましたが、同窓会会員の皆様方のご健勝を心
 からお祈りいたします。

（乾地環境部門・神近牧男）

支部だより

北海道支部

澤 向 豊（V昭43年卒）

6月6日（日）、札幌市で本部から能美誠常任幹
 事のご出席をいただき、第8回北海道支部総会が開
 催された。この2年間に亡くなられた会員長谷川長
 年氏（V昭32年卒）および田口亮平氏（V昭32年卒）
 に対する黙祷を行った後、事務報告、そして村田修
 身監事（F昭32年卒）および角厚志監事（B昭34年
 卒）から会計監査報告があり了承された。ついで、
 新役員に支部長村田修身（F昭32年卒、新任）、副
 支部長井上詳介（V昭39年卒、新任）、監事澤向豊
 （V昭43年卒、再任）、監事角厚志（B昭34年卒、再
 任）、監事山下和人（V昭62年卒、新任）が選出さ
 れた。議事終了後、能美教授から独立法人化された
 母校の近況説明があり、教職員の自助努力姿勢に感
 銘を受けた。

懇親会では、出席者が鳥取時代の思い出話しに花
 を咲かせ、2年後には一人が一人の会員を誘い、盛

大な支部総会にすることを約束した。

なお、2004年6月現在の北海道支部会員数は特別
 会員8名、一般会員57名；農学6名、農芸化学5名、
 獣医26名、林業16名、農業工学（土木）11名、農業
 経営（総農）3名です。

関 東 支 部

安養寺 紀 幸（F昭38年卒）

関東同窓会は関東地方の8都県に住居又は職場を
 有している同窓生の方々を会員として構成されてい
 ます。会員数は、平成13年に取りまとめられた会員
 名簿では約950名ですが、該当する同窓生の方々が
 全て網羅されているとは限りませんし、この広い関
 東一円でそれを可能とする手段や方法も持ち合わせ
 ていないなかで、実際は優に1,000名を超えるもの
 と考えられます。

会長は、為季 繁氏（A昭38年卒）で、副会長は
 各学科代表という形で会長により指名されており、
 随時打合せ会を持って毎年行われる総会や名簿の作
 成あるいは本部との連絡などについて相談を行って
 います。しかし、総会にしろ本部との応接にしろ実
 際の事務は主として会長を煩わしているのが実態で
 あり、特に毎年の総会開催の案内は、会員の把握が
 十分に出来ないことに加えて、「宛先不在」で戻っ
 てくるものも少なくなく、大所帯であるが故の最も
 大きな悩みとなっています。会員相互の消息の連絡
 など可能な範囲で会員の皆様の協力を期待したいも
 のであります。

このような中で、毎年度の総会は約40名前後の会
 員の参加を得て行われております。

平成15年度の総会は、平成16年1月17日（土）、
 千代田区霞ヶ関の法曹会館において開催されました。
 当日はあいにく小雪の舞う寒い日となり、当初の予
 定よりも少なく約30名の参加となりましたが、本部
 から附属農場長の中田 昇教授（A昭49年卒）を来
 賓としてお迎えし、少ないながらも盛会裏に開催す
 ることが出来ました。

総会は、会長挨拶に次いで、中田先生から母校の
 最近の情勢、特に、鳥取大学の国立大学法人への移
 行作業の状況をご説明いただき、大学の変革に向け
 ての検討が力強く進行していることをうかがうこと

ができました。

議事は、副会長の横山 勇氏 (C昭33年卒) の司会のもと、議長に原田 繁氏 (A昭25年卒) が選出され、滞りなく終了しました。

引き続き行われた懇親会では、旧制の専門学校卒業の方々から平成10年代の卒業生の方々まで、各界各層、老若入り混じって親しく懇談することができました。なかでも、平成11年森林生産学講座卒業の小河原佐織さんは紅一点の参加で、寒い中に温かい雰囲気をもたらしていただきました。都内の監査法人の研究所に勤務されており、CO₂削減等の地球温暖化問題に取り組んでいるとのこと、若い人たちの活躍を参加者一同心強く感じた次第でした。

平成16年度の総会は10月23日 (土)、昨年と同様、千代田区霞ヶ関の法曹会館において開催を予定しております。今年こそ多くの方々の参加を願っております。

(鳥取大学農学部関東同窓会連絡先：〒152-0001
目黒区中央町1-4-7-302 TEL/FAX：03-3712-4576)



静岡県支部

永井 正 (A昭50年卒)

今年も1月の第3日曜日に、松南 徹支部長 (E昭33年卒) 以下22名が参集し静岡県支部総会・懇親会を開催しました。母校からは田村文男教授のご出席をいただき、いつもながら大変お元気な松南支部長のご挨拶に始まり、母校の動向を伺い、会員の近況報告 (相変わらず健康の話題が多い) 等々、結びの貝殻節まで、大変楽しい一時を過ごすことができました。

本県支部も総勢109人の大所帯となりました。幹事は学科輪番制で、今年は農学科が担当ですが、ここ数年来の課題は会の活性化です。毎回の幹事が工夫を凝らし、35歳以下・女性の料金割引や各学科幹

事による電話作戦等を展開して参りましたが、なかなか思うようにはなりません。

現在、慣例の開催日、1月の第3日曜日についても、大学の入学センター試験と重なり、同窓会本部には強行日程での参加等ご無理をお願いしていることもあり、土曜日の開催も含め活性化に向けた見直しを図っております。

しかし、懇親会では出席率の伸び悩みを跳ね返すが如く、出席者の酒量は大幅な伸びを続けております。今年の参加者には、来年はそれぞれ会員を1名づつ同伴し参加していただく倍増 (案) をお願いし、幹事を農芸化学科へ引き継ぎました。



愛知県支部 (愛知砂丘会)

近藤 俊雄 (E昭32年卒)

平成16年2月21日、名古屋市中区の「アイリス愛知」において、大学から服部教授をお迎えして第14回農学部同窓会愛知県支部 (愛知砂丘会) 総会が開催されました。愛知砂丘会は昭和59年に先輩諸氏のご尽力により設立され、当初は毎年、その後隔年開催してまいりました。しかし、私が支部長をお引き受けて平成10年に第13回を開催後「公務員倫理規定」が公表されました。「公務員と業者の会食は好ましくない」との趣旨であります。県退職後コンサルタント会社にお世話になっている私としては現職の皆様にご迷惑をおかけしては申し訳なく思い、しばらく中断させて頂きました。その間、先輩諸氏からお叱りやら再開要請を承りました。他大学でも同じように逡巡していたようですが「同窓会ならば」とか「立食形式なら」等の整理が整い再開することと致しました。

今回は久しぶりに名簿の修正を致しました。先ず、大学同窓会事務局より最新名簿を取り寄せ、各学科

幹事に修正をお願いし、この原案により開催通知を発送致しました。住所不明で返送分を削除し、返信ハガキの記載事項により修正して最終名簿としました。その結果251名の会員が確認されました。

第14回総会の出席者は例年並の33名でした。開会挨拶に続いて服部教授より大学の近況をご報告頂きました。総会では通常どおりの事業報告、会計報告が承認された後、総会開催を毎年から隔年とする規約改正並びに役員改正が提案どおり承認されました。新役員として支部長に原田昭夫氏（C昭32年卒）、副支部長に森山浩氏（E昭40年卒）、金本勇氏（V昭40年卒）の両氏と各科2名の幹事が満場一致で選出されました。新役員挨拶に続いて平成13年に開催された「農学部同窓会80周年記念総会」に愛知県支部代表としてご出席された元支部長斉藤哲夫氏から当日の概要報告がありました。

懇親会では出席者名簿順に1分間スピーチで近況報告をお願いしました。OB世代では健康管理や趣味に関することが多く、現役世代では仕事の話が多かったようです。特に獣医学科卒の県職員は「BSE対策で忙しく明日（日曜日）も出勤です」との報告でした。その後、京都の鶏インフルエンザが報道され、大変な時代を迎え、現役の皆さんのご苦労が察せられます。最後に原田新支部長の中締めで懇親会がお開きとなり、同窓の絆を一層深めた愛知砂丘会は無事終了致しました。

最後になりましたが遠路のところご臨席いただいた服部先生に感謝し、支部報告と致します。



石川県支部

幹事 澤本和徳（A平元年卒）

石川県支部は、54名の会員がおり、年に1回は定例会を開催して顔を合わせておりますが、幹事の不行き届きで昨年の開催ができず、2年ぶりの開催となりました。大先輩の皆様からお叱りを受けたところ です。

平成16年度の支部定例会は、本学より田邊先生（A昭43年卒）をお迎えし、6月20日（日）に金沢駅前の割烹「よし久」にて開催しました。

今回は、前日に挙行された藤原由貴子（A平12年卒）さんの結婚式に田邊先生がご出席とのことで、先生の来県にあわせてこの日の開催としたものです。なお、藤原さん（現在：松崎さん）は本学を卒業後、松任市内の農業法人に就職していたところ、金沢市内の農業青年と出逢いご結婚となりました。

また先生は、澤本と玉村壮太（A平10年卒）さんの案内で石川県砂丘地農業試験場を訪問され、稲部善博（A昭45年卒）場長の説明で県内砂丘地で生産が盛んなブドウをはじめとした果樹やスイカ等野菜の試験研究の現状についてご視察されました。



定例会では、長谷川和久（C昭40年卒）会長のあいさつ、田邊先生から本学の状況や研究をめぐる情勢報告をいただいたあと、脇坂隼雄（A元助教授）さんの乾杯の音頭で懇親会に入りました。瀧田晴夫（C昭33年卒）さんの締めがあるまで、出席者からの近況報告や思い出話で大いに盛り上がり、来年の再開を誓いました。

皆さん来年も開催しますよ！（幹事）。

京都支部

佐々 勤（F昭39年卒）

豪雨災害が多発していますが、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

今年の2月28日に、本部から作野友康教授をお迎

えし、7回目の京都府支部総会と懇親会を開催いたしました。

当日は、41人の会員が集う中、支部設立に参画され、初代支部長に就任、平成10年にその職を退かれるまで、支部運営と発展に尽力された葛西善三郎さん（C昭16年卒）がその功績により、本部から感謝状を受けられました。葛西さんは、「私は、昔から何もしなかった。何もしないと、周りが助けてくれる」とユーモアたっぷりのお礼を述べられました。

作野先生からは、独立行政法人化後の大学運営、山積する課題等の近況報告をいただき、時の流れとはいえ、一抹の寂しさを感じましたが、懇親会は、2年ぶりの再会で盛り上がり、一瞬にして時間が過ぎました。

同窓会の少し前から、府内丹波町で「鳥インフルエンザ」が発生しました。事態をご承知の通りですが、京都府が対策として専門家会議を設置し、鳥大の大槻公一先生もメンバーに就任されました。4月13日に終息宣言が出された後、府の担当者は「大槻先生の迅速で的確な指示など、感謝の念でいっぱい」と言っております。京都支部からもお礼を申し上げます。

なお、総会で役員の一部が交代したので報告します。

支部長：藤野（山本）真澄（B昭29年卒）、事務局：佐々 勤（F昭39年卒）、会計：片岡光信（A昭50年卒）となり、監事は人選中であります。

岡山県支部

幹事 佐古 節夫（F昭45年卒）

平成16年度岡山県支部総会を8月7日（土）に岡山市内の「岡山国際交流センター」で開催いたしました。

現在、把握できている支部会員は534名ですが、当日は、本学の生物資源環境学科の田邊賢二先生をお迎えして猛暑の中64名が出席いたしました。

まず、15名の物故者に黙祷を捧げた後、奥田宏健支部長（V昭44年卒）の開会のあいさつで始まり、田邊先生から大学の状況説明を兼ねた来賓祝辞を頂きました。

続いて、議題の事業活動及び会計報告等の後、出

席者最年長の福田稔（A昭15年卒）さんの音頭により乾杯し懇親会に移りました。

途中、岡山県議会議員の井元乾一郎（B昭44年卒）さんから昨年の県議選での当選（2期目）のお礼と報告がありました。

また、各科ごとに壇上に上がり、自己紹介や近況報告があるなど、しばしの間、青春時代の思い出話に花が咲き、会場は楽しい笑い声に包まれていました。

最後に、高農校歌、啓成寮寮歌を全員で合唱した後、小童谷昭治副支部長（E昭43年卒）の音頭により再会を約して万歳を三唱し、なごりを惜しみながら閉会いたしました。



福岡県支部

事務局 小寺 均（A昭54年卒）

福岡県支部には、現在180名近くの会員が所属しています。支部の活動としては、毎年総会を開催し、同じ大学で青春時代を過ごした同士の友好を暖めております。

平成15年度の総会は、平成15年12月17日に本部同窓会から生物資源環境学科森林科学講座の作野友康教授（F昭37年卒）をお迎えして、会員18名の参加のもと、福岡市中央区赤坂の「みくに」にて開催されました。

総会では、岡野昌明支部長（F昭31年卒）の挨拶で幕を開き、作野教授から挨拶を兼ねて母校の動向、特に16年度から開始される国立大学法人化に向けた検討状況等についてご報告をいただき、会員一同時代の大きな変革を認識したところです。

懇親会は、林満喜雄前支部長（F昭19年卒）の乾杯の音頭で始まり、会員同士の近況報告、鳥取時代の思い出話等に花が咲き、時間がたつのも忘れて楽

しい一時を過ごしました。また、鳥取県のご出身であり、本年度の10月末に福岡県で伝統文化、音楽等の様々なイベントが実施される国民文化祭の実行委員でもある岡野支部長から、「傘おどり」が鮮やかな衣装と共に披露され、会に花を添えていただきました。

最後に、福岡県支部、母校の今後の益々の発展を祈念し、また、若い方々の積極的な参加を期待しまして、盛会のうちに懇親会を閉じました。



熊 本 県 支 部

支部長 森 尾 由 成（A昭53年卒）

平成16年度、恒例の支部総会は、大学本部から中田昇先生（A昭49年卒・附属農場）にご出席いただき、6月26日（土）午後3時から熊本市「KKRホテル熊本」にて開催されました。

総会では本学本部の中田先生より、農学部最新の動向や大学組織の変化、学生の現状や研究交流などをお話いただき、母校への思慕をいっそう募らされました。

また、田口支部長（E昭34年卒）より、同窓会員が全国各地で活躍され、会員として交流が持てることへの感謝の気持ちを、今後同支部が更に交流を深め、より一層の発展を願うとのご意見を出され、支部役員を次世代にバトンタッチしたいとの提案があり、先輩諸氏の貴重なアドバイスも頂戴して全員一致で新役員体制でスタートすることになりました。

総会では、その後、藤本完二（B昭51年卒）役員から会計報告および会員名簿について説明があり、岡本隆夫（C昭20年卒）監事から会計監査報告がなされました。また、常に同会の屋台骨として支えてこられた池田剛志（C昭42年卒）役員から会員の動向や名簿作成など報告がありました。

懇親会では会員同志の近況報告や、情報交換、他県出身の同窓生も加わって、和気藹々と楽しい時間を過ごし、最後は森幹夫（A昭19年卒）元支部長所有の全国寮歌祭の時に着用したハッピーをお借りして、鳥取農業学校校歌「大海原の水うけて」を先輩会員のリードで合唱し、盛会のうちに終了しました。

末筆ではありますが、新役員のご紹介と全国の会員皆様方のご健闘をお祈りし、ご報告を終わらせていただきます。



沖 縄 県 支 部

多嘉良 功（V昭59年卒）

平成16年6月26日の夜、沖縄県支部総会が那覇市内「寿々」において、母校より能美 誠教授（農学部生物資源環境学科、農業経営情報科学教授、農業経営学科昭和55年卒）をお迎えし、10名の会員の出席のもとに開催されました。

大学側からは、「現在大学は変革の時期を迎えており、鳥取大学も今年4月より独立行政法人となり、様々な実践プログラムの実施に取り組んできている」という報告がありました。

さらに、このような取り組みが評価され文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムにおいて、鳥取大学が申請した「アウエアネスを持った学生づくり教育」が採択されたこと及び「週間ダイヤモンド」誌2003年10月25日号の国公立145大学の総合評価ランキングでは総合15位と上位にランキングされたとの報告に一同拍手で母校の栄誉を喜び合いました。

また、県支部からは、北部工業高校勤務の比嘉靖先生（V昭44年卒）の第41回タイムス教育賞受賞の報告があり、輝かしい会員の活躍に会はひときわ盛り上りました。

池田支部長（F昭29年卒）による乾杯の音頭の後、

記念撮影、会員の近況報告と会は進み、泡盛にほろ酔い気分になった頃、次回の開催を平成17年6月25日(土)と決め、2次会へと場所を移し、沖縄の熱い夜は楽しく過ぎて行きました。



クラス会だより

遠山会 涌島幸男 (A昭20年卒)

私達は昭和18年(1943)の4月、旧制鳥取高等農林学校農学科に入学した仲間ですが、学生生活を共にすることができたのは1年間もありませんでした。戦争による当時の苛酷な生活を振り返りながら、本年4月開催した傘寿クラブ会の模様などをご紹介し

ます。

まず戦争が敗色濃厚となった同年12月、学生の兵役猶予の特例が停止され、いわゆる第一次「学徒出陣」が始まりました。このとき徴収された仲間が7人。さらにこれに追い討ちをかけたのが徴兵年齢を20才から19才に引き下げたことでした。また19年5月には学徒勤労動員令によって農学専攻学生は、全国に組織された「食糧増産少年農兵隊」の幹部要員(勤労奉仕隊の監督)として組み込まれ、鳥取、島根、兵庫の三県に派遣されたなかでの学徒出陣となりました。

驚いたことに、敗戦後はこんな学生でも卒業扱いとなっており、復員の時期により20年9月、12月、さらに第一次学徒出陣組だけは留年とされて22年3月となるなど、卒業期を特定できない結果となりました。このため当時クラス担任としてお世話になっていた故遠山正瑛先生のお名前を拝借したのがクラス名の由来です。クラスの人員は51人でしたが、生存者は33人、本年4月のクラス会では16人のご出席がありました。つぎは米寿を視野に置いて、4年後に再会する約束をしてお別れしたところです。

人・顔・人・顔



北原喜代司 (B昭40年卒)
 (株)北原保健事務所
 代表取締役

今から40年前の事。

石川県高校の理科の教員に合格していたが、当時付き合っていた女性(私の妻)が某保険会社の経理の仕事をしていて、この世に保険会社なるものがあるのかと知った。偶然にも大学の就職の掲示板に富国生命の求人広告が目につき、面白半分で受験と相成ったのだ。神戸支社で筆記試験を受け、即日合格をし、急遽、東京本社の重役面接に行けとの事。着替えや金を取りに鳥取にとんぼ返り。急ぎ東京に行く事で、仮眠をとり、寝入ったが、目が覚めたのが鳥取駅発の夜行列車30分前、雲山の下宿先からボロ自転車のペダルを壊れんばかりと踏みつけ、やっとの思いで、出札を通らず、汽車の後ろに飛び乗って、間一髪、列車に間に合った思い出が昨日の様に思い出すのだ。この時、も

し寝込んで、夜行列車に間に合っていなかったら、今日の私はない。更に、重役面接で合格してからが大変だった。両親の猛反対が待っていたのだ...。何故に教職員を捨てて保険会社なのか...保険とは、人の懐に手を突っ込んで金を取り上げる様な仕事だ...と。父は専業農家として、母は生まれた孫を育て、お前には学校の先生を嫁として探してやるから、二人で先生として働く。そんな家庭田舎ではが最高なのだ...と猛反対をしたが、私は若い内は東京で働くとして頑として拒否し、保険の世界に入ったのが苦労の始まりだった。現在は従業員6名に大迷惑を掛けながら、東に西にと飛び回っている毎日。その為か、生命保険では、全世界の生命保険のトップセールスマンの仲間入りで、20年前より毎年アメリカの年次世界会議にも出席。損害保険でも16年前よりトップランクの特級認定代理店として認定されて、目下生損保併売代理店として年商8億円の代理店として頑張っている。人に言うに言われぬ苦労があるが、停年もなく、80歳まで現役を合言葉に、「人様の為」に頑張る今日この頃だ...

沙漠緑化の遠山正瑛先生を悼む

長谷川 和 久（C昭40年卒）

北陸の田舎で“実践農学は鳥取”の声を聞き、農学部に進み、自分の科とは違うが有名な先生への関心から無届けで授業を受けた。やや小柄ながら独特の威厳を保たれ講義をされる約40年前の姿が今、訃報に接し昨日のようによみがえる。今でこそ赤梨の需要が増えたが、当時みずみずしい鳥取の二十世紀梨全盛の頃で、果樹園芸への関心も高い頃であった。先生はこの分野がご専門で、昼夜の温度差が大きい環境では品質の良い物がとれるとされ、その点で当時不毛、荒廃地とみなされていた海岸内陸砂地は潜在的に優良な耕地環境であると強調された。

百の論より一つの証拠。農学、農業は本来応用科学と実践の関係にある。現場で実際に物が収穫されてはじめて評価される面が大きい。先生は、『砂丘でもものができたら太陽が西から昇る』と絶えずやゆされながら実証的にブドウ、長イモ他が節約した水の供与と管理で育ち、良品が多収穫できることを示された。これを含む実践研究成果は新しい砂丘農業の発展や全国大学共同研究施設鳥取大学乾燥地研究センターの開設に連なった。

周知の通り砂丘や沙漠は一夜にして地形が変化する。作った樹園や畑を長く維持するには防風、砂防策が必須となり柵や防風林設置、水源かん養、緑化地拡大など関連作業が必要となる。このことが人生後半に力を入れられた世界的沙漠緑化のお仕事へと発展した。国内的には海岸砂防や砂丘地の優良農地転換を促した。ちなみに石川県では13000haの砂丘地のうち1500haの砂防、防風林整備

や昭和43年の砂丘地農業試験場設置へつながった。ここには先生の門下生が場長、技師として赴任され、水や作業のつらさから嫁殺しと言われた砂地の畑づくりを今日の数百haに及ぶブドウ、ダイコン、スイカなどの石川砂丘農業発展の礎づくりに影響した。砂防、緑化は土壤浸食、砂漠化、温暖化などの防止、二酸化炭素吸収、土壌や緑のダムによる保水機能増、ひいては食料生産、人口扶養力増大、平和維持につながる。とりわけ先生が年間の大部分指導滞在された中国北部の砂漠化防止は日本への黄砂や酸性雨飛来の抑制、北東アジア圏の産業文化の発展につながる。

荒涼な沙漠における地道な1粒のクズ種子や1本のポプラ苗の播種、移植作業が大海へ一石を投じて生じた小波から派生する大波のように、地球環境の保全や教育に広く貢献したことは報道や子息柁雄氏著「沙漠を緑に」等で案内されるとおりである。先生の科学に基づいた実証的行動姿勢は我々へ多くの教訓を与える。ちなみに私も沙漠緑化プラス米生産の考えからゴビ沙漠でイネを植える技術協力を10年来続ける励みとなった。

中国包斗南のクグチ沙漠恩格貝発展農場内には人口13億の国で生存者で銅像が立つのは毛沢東氏に次いで2人目とされる立派な顕彰碑があり台座に3ヶ国語で功績が刻まれており、見学者が絶えない。これに象徴される偉業と心は世代を越えて広く後世に継承されよう。99才の天寿をまっとうされた先生の安らかなご冥福を祈りたい。

事務局だより

一人でも多くの会員の方に会報をお届けしたいと思っております。勤務先、現住所等変更がございましたら、是非ご一報下さい。

なお、会費の納入もあわせてよろしくお願ひいたします。

〒680-8553 鳥取市湖山町南4丁目101

TEL・FAX (0857) 28-9262

Eメールアドレス dousou@phanes.muses.tottori-u.ac.jp

